



ぱれっと

Palette

「ありがとう 伝えて広がる 協同の和」

10

2019 October
vol.230

ぱれっと

ありがとう
伝えて広がる

協同の和

10 vol.230
2019 October

URL <http://www.ja-okayama.or.jp/>

発行／岡山市農業協同組合 〒700-8535 岡山市北区大供表町1-1
発行人／太田 誠一 編集／総務部総務課 TEL086(225)9846



JA岡山は、組合員募集中です！

耕そう、大地と地域の未来。

特集

「農業・地域・JAが元気な姿を目指して」

農を担う
菅原 宏都さん

牛窓地区……………10ページ

Recipe

旬のレシピ紹介

インゲン ごましょうゆ掛け

【材料：2人分】

インゲン …………… 200g
白ごま …………… 70g
濃い回ししょうゆ …………… 120ml
料理酒 …………… 60ml
みりん …………… 30ml
かつお節 …………… 10g

【作り方】

1. 鍋に料理酒、みりんを入れ煮きり、濃い回ししょうゆ、かつお節を入れてボールなどにこして入れ、フライパンでいった白ごまを合わせ、ごましょうゆを作る。
2. 鍋に水と塩適宜（材料外）を入れ沸かし、インゲンをゆで、熱いうちに①に漬ける。
3. ②を1時間ほどなじませ器に盛り付ける。

レシピ提供／永井智一（ながいともかず）
茨城県笠間市にある「キッチン晴人（ハレジン）」
オーナーシェフ

Ag log ram

あぐろ
グラム

編集後記

菊の節句 彩り華やかに

今回のあぐろグラムは、菊について紹介します。
日本の国花としても親しまれている菊は、主に秋に咲き、旧暦9月9日には重陽の節句として親しまれてきました。

平安時代の初めに宮中行事の1つとなり、菊を眺める宴が開催され、菊を用いた厄払いなどが行われました。また、時代とともに菊の風習は庶民の間でも広がり、江戸時代には五節句の1つとして親しまれる行事になっています。

近年では、毎年10月下旬から11月中旬に菊花大会が開かれ、後樂園や烏城公園で県内の菊栽培愛好家が制作した菊花作品が展示され、色とりどりの花と香りが楽しめます。

編集担当 住吉 沙弥香



※「あぐろグラム」とは「アグリ（農業）」と「ログ（記録）」、写真専用投稿ソーシャルネットワーキングサービス「インスタグラム」をかけた造語です。

農業・地域・JAが 元気な姿を目指して

今月号では、6月28日の通常総代会において決議された中期計画における営農振興計画と今後のJA岡山の目指すべき姿について、経営管理委員会宮武博会長と営農経済担当常務および両部長による対談の様子をお届けします。

対談参加者

宮武 博 経営管理委員会 会長

山本 到 常務理事(営農経済担当)

今田 達男 営農部 部長

谷岡 誠人 経済部 部長

進行役 藤本 弘幸 営農部 副部長

※本文中敬称略・役職等は対談時のもの



宮武 博(みやたけ ひろし)会長

●対談(8月19日、JA岡山本所ビルにて)

藤本 本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。進行役をさせていただきます。藤本です。

宮武会長にお聞きします。6月28日の通常総代会において経営管理委員会と監事が就任し、総代会後の経営管理委員会において新役員体制が決まりましたが、改めて所感を

教えてください。

宮武 近年の地域農業全体を取り巻く環境は、生産現場における基幹的農業従事者の急速な減少、担い手・人手不足など「人」をめぐるさまざまな課題が深刻化しています。

JAにおいては高齢化や世代交代により組織基盤である組合員構成が大きく変化・多様化する中、事業取扱高の減少や事業利益の大半を占める信用・共済事業の収益が縮小するなど、経営基盤の悪化が懸念されています。

こうした状況にあつて、JA岡山では「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として「持続可能な地域農業」を実現するために、農業生産の拡大、農家組合員の所得向上、地域の農地の保全など、農を通じた豊かな地域づくりを目指していきます。地域の活性化についても日ごろからこうした活動計画の実践にご協力いただいている女性部、青壮年部、助け合い組織の皆さまと連携し、食農教育や地産地消活動の取り組み、生活文化活動、高齢者福祉活動などに取り組んでいきます。

藤本 山本常務に伺います。新たな営農振興計画がスタートしていますが、進捗状況はいかがでしょう。

山本 全体的に確実に進歩しているのを実感しています。営農振興計画は前回のものを基盤としているので、活動の5本柱も新たに設定した「農地の有効活用」以外は全て引き継いだものになっています。したがって各営農センターとも、地域ごとの特色を生かした営農振興計画に

沿って取り組むことが可能になっていきますし、TAC指導員の活動展開も行いやすいと思います。しかしながら組合員、生産者あつての営農振興計画ですので、その軸だけはぶれないように進めたいと考えています。

藤本 今田部長はいかがでしょう。

今田 現場は営農振興方針に沿って取り組んでいます。従来のやり方では行き詰まりを感じる場面もあります。

山本 到(やまもと いたる)常務理事

そういった中でこれまで可視化できなかった生産者の経験や技術といったビッグデータを活用したスマート農業の実証実験に着手しています。実証実験は東区と南区の米麦農家のほ場で取り組んでおり、生産者の方たちも立ち会っていただきます。実際

に自分の田がどうなっているのかということをグラフや数字に落とし込んだもので説明すると、分かりやすいと好評でしたし、TAC指導員も相談を受けた際に回答しやすいと話しています。これは今までの農業には無かった新しい取り組みですので、農業者の所得向上と生産振興につながると感じています。

藤本 次に谷岡部長はいかがでしょう。また営農センター長の立場で取り組んだ3年間の営農振興計画を振り返ってみて生産者の声をお聞かせください。

谷岡 営農部と連携し、農家所得の増大につながる生産コスト低減に努めていきます。現場の意見を吸い上げて、営農振興計画に見合った重点品目を選択し、JA主導で価格等の交渉をして



今田 達男(いまだ たつお)部長

いきながら、少しでも安く供給していくことが一番重要です。

営農センターでの営農振興ですが、「センター管内全域でやろう」というのは難しいので、「今年はこの地区をまず重点的に行う」ということを念頭においた営農振興を行いました。

成果が見えた地域の方には非常に喜ばれ、農業が楽しいという声をいただきました。定年退職され、地元に戻られた方からも「JAがしっかりとサポートしてくれるので、やりがいを感じる」と喜んでいただきました。



谷岡 誠人(たにおか まこと) 部長

また平成29年度と30年度に営農振興支援事業を実施し、果樹苗木、栽培施設・生産資材、暗渠パイプ、フォアス設置、鳥獣被害防止に対する資材の購入費の一部を助成し、生産者の方々に大変好評でした。

藤本 来年にはJA岡山が合併して20周年を迎えますが、JA岡山の目指す姿を教えてください。

宮武 「農業・地域・JAが元気になる姿」を目指していきたいです。そのためには多くの課題があり

ますが、まずは2つのことに取り組みたいと考えています。
1つは「自己改革」のさらなる実践です。政府主導の農協改革の集中推進期間は本年5月をもって一応のピリオドが打たれました。しかしながら、JAグループが自ら掲げた「農業所得の増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」を重点課題に据えた「自己改革」は、むしろこれからが本番です。

我々JA岡山も今まで以上にJAの強みである総合事業の機能発揮を図り、組合員・利用者の営農と生活向上実現にむけて取り組んでいきます。

もう1つは役職員教育です。JAは地域に根ざした相互扶助の組織です。役職員の多くは地元出身であり、共同作業などを通じて信頼関係ができており、地元と地域の人のことを熟知しています。JAはこうした

「土着力」で組織・経営が成り立っていると思います。

このようなJAの地域貢献を組合員はもちろん、地域の人も広く知っていただく必要があります。これがJAを継続していく鍵ではないでしょうか。職員には、協同活動などを通じて地域の人との信頼関係を強めるための努力をするよう、常に話しています。

つまり強い責任感を持ち、能力を高め、それぞれの目標に向かって努力する職員を育てることが必要です。そうした職員がやりがい、働きがいを感じるような人事システム、職場風土の確立に取り組んでいるところです。

山本 就任当時から「創造」と「挑戦」をキーワードに営農振興を進めています。生産者の方が「農業をやっていてよかったな」と思っていただけ



藤本 弘幸(ふじもと ひろゆき) 副部長

るよう、営農事業と経済事業の方向性を合わせ一体となり取り組んでいきます。TAC指導員体制が発足して1年が経過しましたので、各営農センターの成功事例を横に展開しながら、「点」を「面」に拡大していきたいと考えています。各自が農家所得の向上のために生産現場で問題点、改善点を見つけ、目的意識、危機意識を持ちながら本気で考え、実行し続けることが重要です。

もちろん市町村など行政・関係団体と連携して行い、JAの

事業活動が停滞しないように取り組んでいきます。

今田 生産から販売、経営指導まで一環してかわつていけるのはJAしかありません。市場経由で販売することも重要ですが、農産物直売所で販売することも生産者・消費者ともにメリットが大きく、喜ばれています。JA自らが販売して生産者の所得を向上させるような、従来の考えにとらわれない発想で、新しい事業を展開していきたいです。

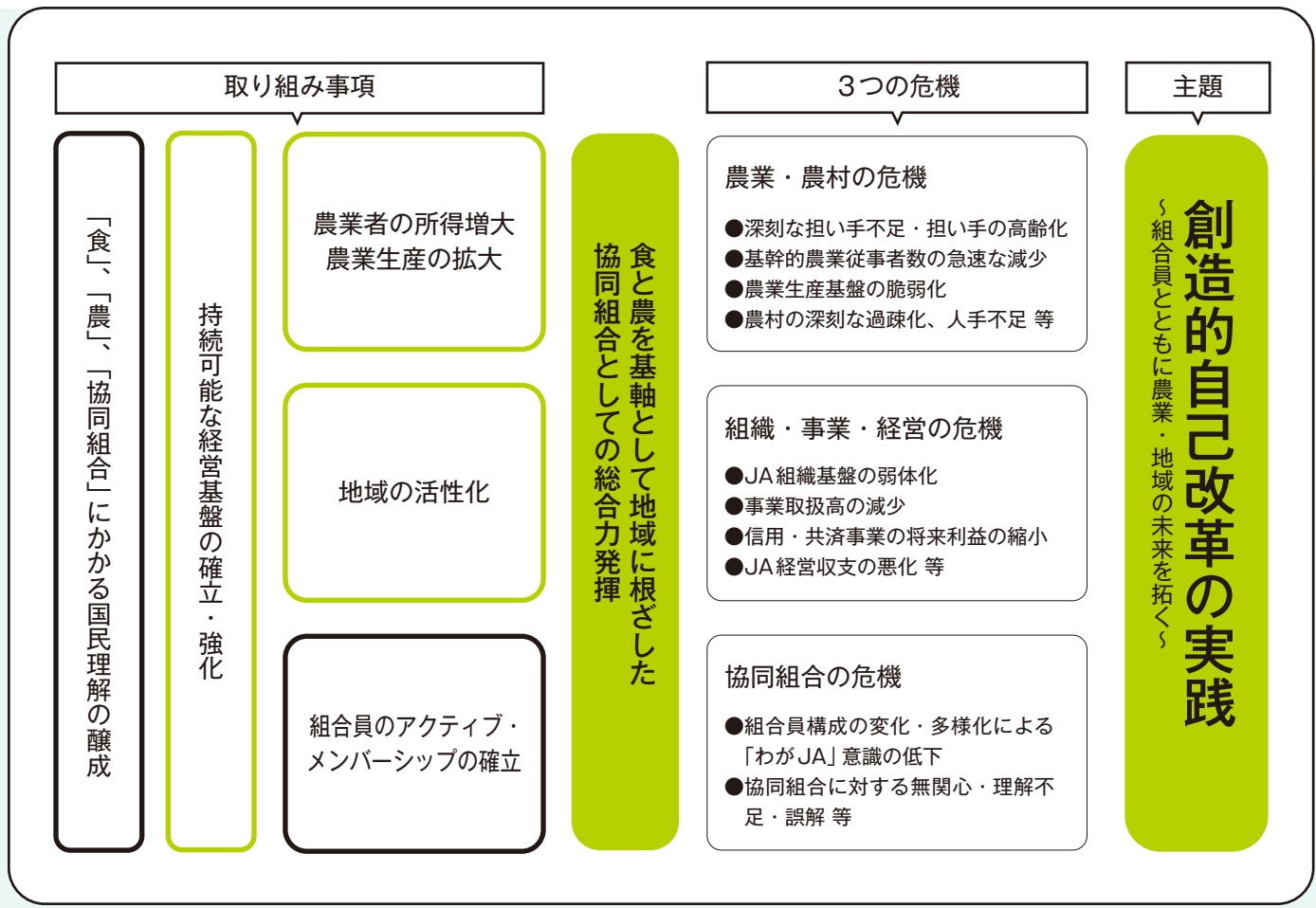
谷岡 JA岡山プライベートブランド肥料の普及拡大をはじめ、スマート農業を駆使した土壌診断による施肥量の適正化や、生産資材価格の引き下げ等、生産者の方々のニーズにあった事業に引き続き取り組んでいきます。

藤本 最後に組合員の皆さまにむけてメッセージをお願いします。

宮武 現在の農業を取り巻く環境はTPP11(環太平洋連携協定)や日米貿易協定など不透明ですが、もともと農業は国の礎であり、経済効率を求める社会で守れるものではないと思っています。

JAのよさは、農業を基軸とした総合事業を通じた組合員とのふれあいの中にあると思います。「地域に必要とされるJA」のポジションを築いた今日、これから先もJA岡山がそうあり続けるためには、組合員・地域の皆さまのお役に立ち、満足や信頼を得ることが大切です。その意味で、さきほど申し上げた自己改革の三本柱をしっかりと取り組み続け、成果を上げる。「組合員のために、地域のために」との思いを役職員が自分のこととして捉え、これを組織全体で高いレベルで共有、そして実践することでJAグループの掲げた「自己改革」とJA岡山の目指すべき姿にたどり着くはずだ

です。



野菜

マメ科の植物は連作を嫌います。2〜3年はあけましょう



営農部指導課 中江 智子

◎ソラマメの栽培

●育苗

10月に播種し5月に収穫します(資料1)。本葉5枚ごろを過ぎると耐寒性が弱くなるので早播きは避けましょう。直播も可能ですが、発芽をそろえるためにも育苗をおすすめします。セルトレイは72穴、ポットは7・5〜9号を使用してください。

播種はへそ(おはぐろ)部分が斜め下にむくように差し込みます(資料2)。種子の先端が少し土から出るように浅播きしてください。

●ほ場の準備

マメ科の植物は連作を嫌うので、少なくとも2〜3年はマメ科の植物を栽培していないほ場を選ぶようにしてください。

定植2週間前までにほ場の準備を行います。10平方メートルあたり堆肥を約20鉢、苦土石灰を約1鉢、化成肥料を窒素成分で約90g(野菜いちばんの場合900g)施用します。

●追肥・土寄せ

追肥は茎の整理が終わったころに行います。窒素成分で約30g(野菜いちばんの場合約300g)を畝の肩に施用します。またこのときに倒伏防止のために土寄せを行います。

●収穫

若どりは避けましょう。サヤが肥大して背筋部分が黒褐色になったところが収穫適期です(資料3)。また収穫適期が近づくとサヤの角度が変わってくるので、水平〜下向きになったところに収穫してください。

●害虫

アブラムシに注意が必要です。発生初期にしっかりと防除しましょう(資料4)。

●定植

本葉2枚ごろに定植します。このとき根を乾燥させたり傷つけたりしないように注意してください。

畝幅約100〜120cm(通路含む)で株間40cmの1条植えにし、たっぷりと灌水します。

また、寒さ対策のために敷きわらをします。

●茎の整理

茎が50〜60cmほどになって込み合ってきたら、徒長した細い茎を切りましょう。1株あたり7〜8本に仕立てます。

花き

この時期たくさん品種の球根が販売されています



営農部指導課 中川 雄一

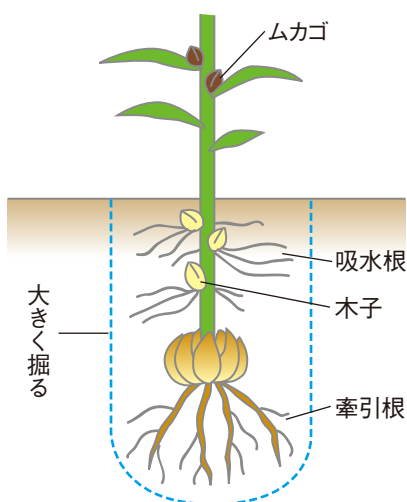
今月はユリの植え替えと増殖についてご紹介します。

ユリの球根は乾燥しやすいので、茎葉が黄化してきた10〜11月に掘り上げてすぐに植え付けるのが理想です。この時期はたくさん品種の球根が販売され、いろいろと計画して植え込むのも楽しみです。が、日本産の原種も美しいものがたくさんあります。

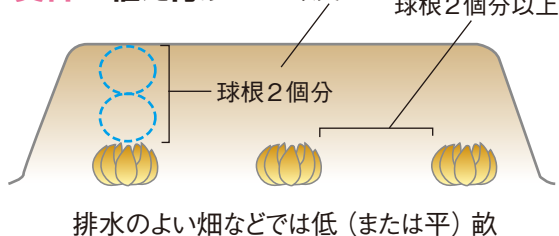
●掘り上げ

種類によっては地上部にムカゴができるだけでなく地下の節に木子ができるものもあります。また下根もしっかり張っているので大きく掘り上げ、土をふるい、茎を球根の上で切ります(資料5)。

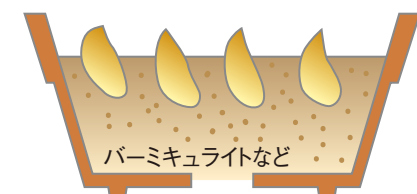
資料5 ユリの形態と掘り上げ



資料6 植え付け



資料7 りん片の挿し方



●分球

今年開花した茎を中心に芽が増えているものもあります。それが完全に2つの球根に分かれているものは手で割ります。(木子やムカゴは茎からはずし、それだけ植えて苗養成します。)植え付け前に消毒する場合、ホーマイ水和剤の200倍液に30分浸漬します。

●植え付け

ユリは球根の上に出る吸収根の発達をよくするため球根3個分ほどの深さに植えます。そのため、良質堆肥や腐葉土

などと、1平方メートルに100gほどの緩効性化成肥料を植え付け予定地に深くすき込んで、作土が深く排水のよい土壌環境を作っておきます(資料6)。

●りん片繁殖(暖かいうちにしましょう)

開花株に育てるには3〜4年かかりますが、早く増やしたい場合にはよい方法です。きれいな球根を選び、球根を形成するうろこのようなものを1枚ずつ丁寧に分け、資料7のようにバーミキュライト

などに頭が1/3くらい出るように挿して灌水します。その際、最外部のりん片や中心の小さいものは使いません。その後は乾燥しないように時々灌水しながら春まで待ちます。20℃くらい(10℃以上)を目標に明るい屋内に置いておくのが安全です。

4〜5月ごろ、発根した小球を分けて苗箱などに植え、養成します。

資料1 ソラマメの作型

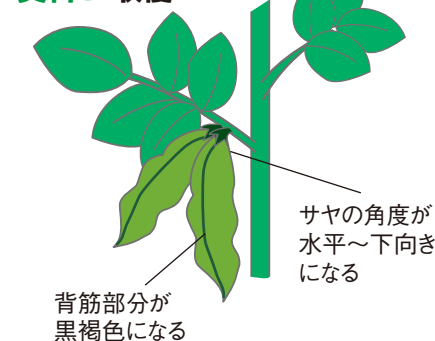
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

▲ 播種 ● 定植 ■ 収穫

資料2 播種



資料3 収穫



資料4 ソラマメに登録のある農薬一覧(例)

薬剤名	適用害虫	希釈倍数	使用時期 (収穫〇〇日前まで)	使用回数
アディオン乳剤	アブラムシ類	3,000倍	7日前	3回
スタークル顆粒水溶剤	アブラムシ類 ハモグリバエ類	2,000倍	7日前	2回
スミチオン乳剤	アブラムシ類	1,000倍	3日前	3回

果樹

施肥や灌水、土づくりを徹底しましょう



営農部指導課
小野 智寛

今年の果樹は連日の猛暑による高温、干ばつ等の影響で、樹体はかなりのダメージを受けていると考えられます。今秋に、施肥や灌水、土づくりを徹底し、順調に養分を蓄え、来年の生育につなげていきましょう。

●果樹の基肥について

基肥には窒素、リン酸、カリの3要素が入った肥料を施し、必要に応じて石灰やマグネシウム、その他の微量要素（マンガン、鉄など）を施しましょう。施肥後は軽く土と混和し、灌水を行い、肥料成分と土をよくなじませます。果樹品目別の基肥施肥量の目安を掲載しますので、ご活用ください（資料8）。樹勢や今年の収量、土質などを考慮し施肥量を1〜2割程度増減しましょう（資料9）。

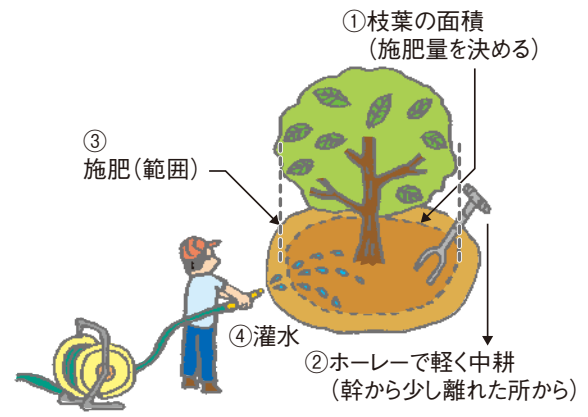
●土づくりの方法

冒頭でも記述しましたが今年には連日の猛暑等の影響で、樹体はかなりのダメージを受けています。部分深耕や中耕を行い、根を切断することにより、幹の近くに新しい細根が発生し樹勢回復を行うことができます。また、固まった土壌をかき回すことで通気性、排水性、保水性を高めることにつながります。部分深耕はあまり極端に行うと根量が一

資料8 果樹品目別基肥一覧表

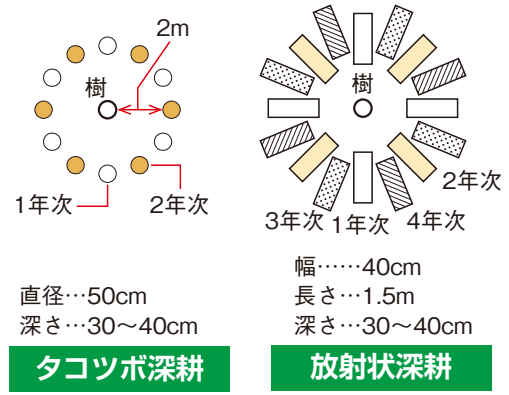
果樹の種類	基 肥		追 肥		窒素成分量(g)		
	時 期 (月)	施用割合 (%)	時 期 (月)	施用割合 (%)	1樹当たり		成 木 (10m ² 当たり)
					1年生	3年生	
桃	10~11	80	8~9中	20	100	200	100~120
ブドウ	10~11	80	収穫後(9)	20	100	300	80~140
梨	11~12	70~80	6、7、9	20~30	100	200	180
柿	11~12	70~80	6下~7上	20~30	150	200	120~170
梅	11~12	80	7	20	100	150	150
スモモ	10~11	80	9	20	100	200	100~120
イチジク	11~12	60	6上、8上	40	50	80	150
キウイ	10~11	70	3、6、9	30	100	350	180
栗	11~12	60	7上、9下	40	50	75	200
リンゴ	11~12	80	収穫後(10)	20	100	200	180
ビワ	9上	60	2中、6上	40	50	100	250
ミカン類	3~4上	60	6上、11上	40	50	100	200

資料9 施肥の範囲と手順



時的に減少し、樹勢が弱る原因となる場合がありますので樹冠面積の1〜2割程度に留めて行い、数年かけて実施します。タコツボ深耕と放射状深耕の例を資料10に示しておきますので参考にしてください。注意したいことは、深耕した時に土壌改良資材・堆肥と堀土を混合し、乾燥しないうちに埋め戻して灌水することです。また県南では土壌改良の適期は10月中であり、遅くても11月上旬ごろまでには行いましょう。実施時期が遅れると根が枯れ込むこともあります。11月になり地温が

資料10 タコツボ深耕・放射状深耕



資料11 土づくり時期

断根時期	秋根の発根状況	発根後の秋根の状態(冬)	評価
10月上旬まで	・太い直根が伸長 ・翌春までに枯死 ・遅伸びを誘発		△
10月上中旬~11月中旬 (地温13℃以上)	・細い秋根の伸長 ・休眠まで働く ・翌春早く発根		◎
12月上中旬	・カルス化のみ ・翌春は新根が出る	カルス形成のみ	○
12月中旬以降	・枯れ込み ・初期生育低下	カルス形成なし 枯れ込む	×

13℃以下になると発根もほとんどみられなくなりまので、今月中に行いましょう（資料11）。